

平成29年9月13日

第3回世界保護観察会議開会セレモニーにおける

## 上川法務大臣挨拶

第3回世界保護観察会議の開催に当たりまして、一言御挨拶を申し上げます。

はじめに、海外の約40の国と地域から参加されている皆様に対し、心から歓迎の意を表します。

また、日本国内から参加されている民間の更生保護関係者の皆様におかれましては、平素から更生保護に多大な御尽力と御支援を賜り、心から御礼申し上げます。

世界保護観察会議は、第1回がイギリス・ロンドン、第2回がアメリカ・ロサンゼルスで開催され、アジアで初めてとなる今回の会議が、ここ東京の地で開催されますことを大変光栄に思います。

さて、今回の会議の主要テーマは「社会内処遇の発展とコミュニティの役割」です。

犯罪者の多くは再び地域に帰ってきます。ですから、地域における民間の方々の協力なくして、犯罪者の再犯を防止し、改善更生を図ることは困難であると言えます。

日本の社会内処遇は、19世紀末における、静岡の民間篤志家による出所者支援に端を発しています。爾来、保護司を始め、更生保護施設、協力雇用主、更生保護女性会、BBS会といった多くの民間協力者が、犯罪者や非行少年に寄り添い、その再犯・再非行の防止と改善更生に大きな役割を果たされ、これが、「世界一安全・安心な国」を支える基盤の一つとなってきました。

中でも、保護司は、地域の実情を熟知し、社会奉仕の精神をもって活動される民間篤志家です。全国に約4万8千人おられる保護司は、それぞれ、全国各地にある900の保護区の一つに所属しており、1年間に約7万3千人もの保護観察対象者の立ち直りに尽力されています。

多くの場合、保護司と保護観察対象者は、同一のコミュニティで生活していますから、相互に素早いコンタクトを取ることができます。そして、保護司は、犯罪をした者や非行のある少年を隣人として受け入れ、同じ目線に立って親身に接し、彼ら・彼女らの声に真摯に耳を傾け、信頼関係を築きながら、誰もが再犯・再非行のない人生を歩んでいくことができるよう、時に厳しく、時に温かく、保護観察対象者を支えておられます。中には、保護観察が終了

した後も、身近な相談相手となって本人を支えていただける例もあります。

また、保護司は、保護区ごとに保護司会を組織しています。この保護司会を起点に、他の保護司と協力しながら、例えば、薬物乱用問題や非行問題について地域の人々と話し合ったり、様々な地域防犯活動や青少年の健全育成活動においてリーダーシップを発揮して、犯罪や非行のない明るい地域社会作りや、誰も排除せず共生できる社会作りに尽力されています。

このような保護司の志は、隣人愛と、自らを育ててくれた地域社会への恩返しとしての純粋な思いに端を発しています。その貴重な活動が、地域の安全・安心を支え、ひいては日本の社会内処遇の発展に大きく貢献しているわけです。

一方、政府においては、これまで、法治国家として、「法の支配」や「基本的人権の尊重」等を重視しながら、再犯防止対策を国の最重要課題の一つに位置付け、犯罪に強い地域づくりに邁進してきました。

例えば、2012年7月に、「再犯防止に向けた総合対策」を策定し、2021年までに、刑務所を出所した者等が2年以内に再び刑務所等に入所す

る割合を20パーセント以上減少させることを初めて目標に掲げました。

また、2014年12月には、「犯罪に戻らない・戻さない～立ち直りをみんなで支える明るい社会～」と銘打って、犯罪者や非行少年を責任ある社会の一員として受け入れること（RE-ENTRY）が自然にできる社会環境の構築を宣言しました。これにより、刑務所を出所した者等の「仕事」と「住居」の確保の取組を加速化しました。

さらに、2016年12月には「再犯の防止等の推進に関する法律」が整備されたところです。

3年後に迫った2020年オリンピック・パラリンピック東京大会の開催を控え、再犯防止施策を総合的・計画的に推進していくためのロードマップを作成するなどして、国・地方公共団体・民間が一体となって取り組んでまいります。

こうした日本の取組は、2015年に国連で採択された「持続可能な開発目標」（Sustainable Development Goals : SDGs）の根底にある、「誰一人取り残されない」社会の実現（No one will be left behind）という理念と軌を一にしています。

そして、今回の世界保護観察会議は、このSDGsの理念を社会内処遇の分野に浸透させていく上

での第一歩になるものと確信しています。

本会議を通じて、地域に支えられた日本の更生保護の取組を世界の皆様に御覧いただき、日本における経験を各国でも参考にさせていただければ幸いです。

同時に、世界各国の社会内処遇における特色あふれる取組について相互に学び合い、また、国際ネットワークを拡大することにより、社会内処遇が更に発展することを大いに期待しています。

最後になりましたが、本会議の成功と、海外から参加されている皆様にとって、今回の日本での滞在が実り多きものになることを祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。